

一般社団法人製剤機械技術学会 平成28年度 特別講演会プログラム

日時：平成28年6月1日(水) 14:45～16:45

場所：品川区立総合区民会館 きゅりあん 小ホール (東京都品川区)

- 14:45～14:50 開会の辞 製剤機械技術学会 会長 草井 章
14:50～15:45 特別講演 1 座長 草井 章 (北里第一三共ワクチン㈱)

演 題：『「革新的DDS創薬の切り口」』

東京薬科大学名誉教授
株式会社岡田DDS研究所 所長

岡田 弘晃

講演要旨

2013年、米国のギリアド社は画期的な抗HCV薬ハーボニーを発売し、翌年の売上がいきなり12,410M\$で世界トップ2位になった。C型肝炎は無くなると予想されており、国内では1ケールの薬剤費673万円のうち患者負担は3～6万円で、残りを全て国が補助する。医療経済学的には、その方が安価であると判断された。一方、2016年4月に重症免疫不全症の遺伝子治療薬ADA導入幹細胞がEMA委員会で承認推奨された。難治性疾患治療の切り札として細胞治療や遺伝子治療が期待されており、最近のDDS創薬の現状を紹介したい。



- 15:50～16:45 特別講演 2 座長 山本 恵司 (科学技術振興機構)

演 題：『分子製剤学に基づく固体医薬品の物性評価』

東邦大学名誉教授
高崎健康福祉大学薬学部教授 寺田勝英

寺田 勝英

講演要旨

原薬や製剤の工程管理や品質保証に関する科学的評価の重要性が益々高まっている。これまで主に固体医薬品の物理化学的性質を様々な分析機器を用いて調べ、新たな原薬物性評価法の開発から製剤設計に関する研究を行ってきた。ここでは、原薬の物性評価として結晶構造を基にした結晶多形の物性、原薬の機能性向上という観点からコクリスタル、また、結晶形態と表面物性についてご紹介する。さらに、製剤工程中の物性評価と品質制御という観点から混合、造粒、打錠工程での品質管理、製剤中の結晶多形評価について述べる。



閉会